

ダイレクト・ソーシャルワーク ハンドブック

対人支援の理論と技術

カナダやアメリカの大学院で
長い間使われ続けている
ソーシャルワークの基本書、待望の刊行！

【著】

アリゾナ州立大学スクール・オブ・ソーシャルワーク名誉教授
ユタ大学名誉教授

ディーン・H・ヘプワース

ミネソタ大学ツインシティ一校スクール・オブ・ソーシャルワーク教授

ロナルド・H・ルーニー

アウグスバーグ大学ソーシャルワーク学部教授

グレンダ・デューベリー・ルーニー

ノースカロライナ大学チャペルヒル校スクール・オブ・ソーシャルワーク
特別功労教授

キム・ストロム・ゴットフライド

ユタ大学スクール・オブ・ソーシャルワーク

ジョアン・ラーセン

【監修】

武藏大学人文学部教授

武田信子

【監訳】

関東学院大学社会学部准教授

澁谷昌史

日本社会事業大学特任教授

北島英治

東洋大学社会学部教授

藤林慶子

北海道教育大学札幌校准教授

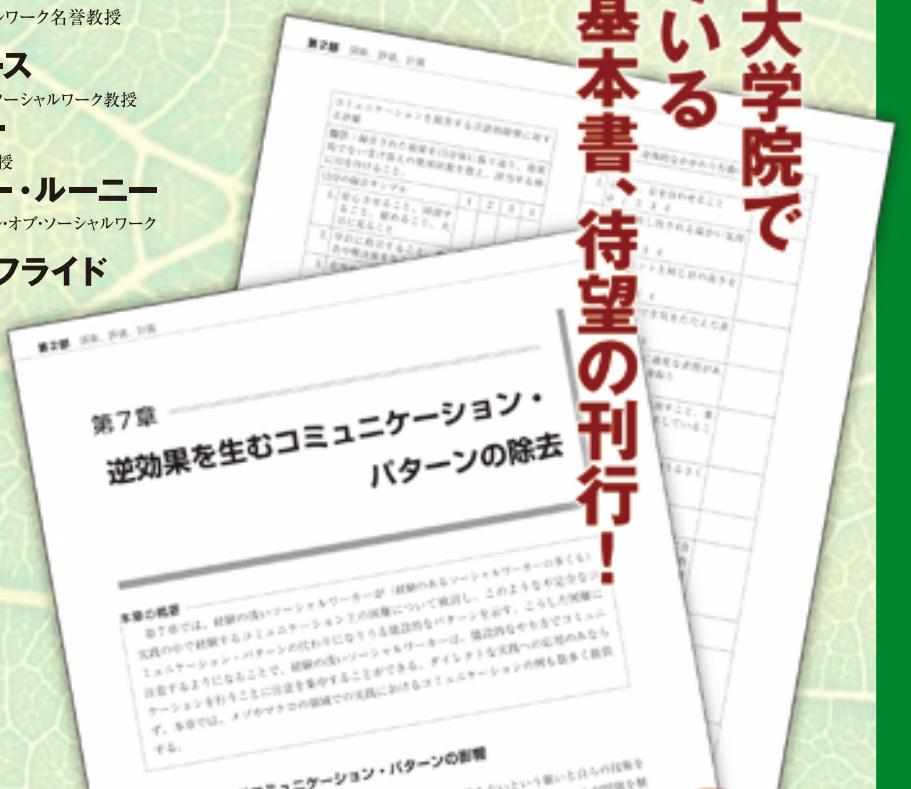
平野直己

大阪府立大学人間社会学部教授

山野則子

■ B5判／上製／984頁(予定)

■ 定価：本体価格 25,000円(+税)



本文
組見本

約45%縮小

Direct Social Work Practice
Theory and Skills

●内容構成

第1部 イントロダクション

第1章 ソーシャルワークの課題

- ソーシャルワークの使命
- ソーシャルワークの目的
- ソーシャルワークの価値
- 価値と倫理
- ソーシャルワークの倫理綱領
EPASコンピテンシー
- コンピテンシーを習得するためのフレームワーク
エコロジカル・システム・モデル／システム理論の非線形への応用／システム理論の限界
- 介入の決定と実行
- 介入の選択に影響を与えるガイドライン
- まとめ

第2章 ダイレクトな実践 —対象領域・理念・役割

本章の概要

- 対象領域
- ジェネラリストの実践
事例
- ダイレクトな実践
- ダイレクトな実践の理念
- ダイレクトな分野の実践者の役割
システムの維持と強化／リサーチャー／リサーチ結果の利用者／システムの開発
- まとめ

第3章 援助過程の概要

本章の概要

- 多様な理論とソーシャルワーカーに共通の要素
- 援助の過程
第一段階：探索、契約、アセスメント、計画／第二段階：実行と目標達成／第三段階：終結
- 面接の過程：構造と技術
物理的条件／面接の構造／ラボールの構築／深層への焦点づけ／アトラインの活用／感情的な機能のアセスメント／認知的な機能の探索／薬物依存、暴力、性的虐待の探索／目的と契約に関する協議／面接の終わらせ方／目標の達成
- まとめ

第4章 ソーシャルワークの 基本的価値の実現

本章の概要

- 個人の価値観と専門職上の価値の相互作用
- ソーシャルワークの基本的価値
アイデアを行動に移す
- 専門職上の価値を受け入れる際の課題
- 倫理
法と倫理の交差／主要な倫理原則／アイデアを行動に移す／秘密保持の限界とは何か／未成年者に対する実践における倫理／倫理的ジレンマの理解と解決
- まとめ
- 倫理的ジレンマをコントロールする技術の向上のための演習問題
- 基本的価値を実行に移す技術の向上のための演習問題
- クライエントの発言
- 模範的な受け答え

第2部 探索、アセスメント、計画

第5章 コミュニケーションの確立

- 参加者の役割
- インフォームドコンセント、秘密保持、機関のポリシーについて話し合う
- 促進条件
- 共感的コミュニケーション
- 感情に気づく力の開発
- 感情を表現する語句
- 共感を正確に伝える
- クライエントの発言
- 対等な共感もって受け答える
- オーセンティシティ
- クライエントとアサーティブに関わる

第6章 相手の話に沿い、問題を探り、 焦点をあてる技術

- クライエントとの心理的コンタクトを維持し、問題を探る
- 相手の話に沿う技術
言語化を促す受け答え／言い換えによる受け答え／クローズドエンド型の受け答え／オープンエンド型の受け答え／具体性を求める受け答え／問題に焦点をあてる受け答え／要約して返す受け答え
- 言語化を促す受け答え
最低限の促し／強調を用いる受け答え
- 言い換えによる受け答え
言い換えの演習問題
- クローズドエンド型の受け答えとオープンエンド型の受け答え
クローズドエンド型とオープンエンド型の受け答えを区別する演習問題／クローズドエンド型とオープンエンド型の受け答えを区別して用いること

■具体性を求める受け答え

クライエントの表現の具体性を高める受け答えの種類／受け取った内容を確認する／ソーシャルワーカーの表現の具体化／具体性を求める受け答えの演習問題

■問題に焦点を当てる受け答え：複雑な技術

探索の対象とする問題を選び／問題を深く探る／共感的な受け答え／オープンエンド型と共感的で具体的な受け答え／焦点づけを妨げる障害に対応する

■要約して返す受け答え

問題の重要な面を強調する／冗長なメッセージを要約する／直接の焦点を振り返る／主要な焦点と今後の継続性の視点を考える／相手の話に沿う技術を自分で分析する

■まとめ

■言い換えの演習問題の模範解答

■クローズドエンド型とオープンエンド型の受け答えを区別する演習問題の解答

■オープンエンド型の受け答えの模範解答

第7章 逆効果を生むコミュニケーション・パターンの除去

■逆効果を生むコミュニケーション・パターンの影響

■効果的なコミュニケーションを妨げる

非言語的な障壁を取り除く

身体的なかかわり／非言語的な手がかりの微妙な文化的差異／その他の非言語的な行動／非言語的なパターンによる受け答えの一覧作成

■コミュニケーションを妨げる言語的な障壁を取り除く

安心させること、同情すること、慰めるること、大目に見ること／早計に助言すること、忠告や解決策を与えること／皮肉や不適切な形でユーモアを用いること／評価すること、批判すること、非難すること／理詰めや説教、指示、説得などによって正しいものの見方を納得させようすること／分析すること、診断すること、出まかせのあるは独善的な解釈をすること／脅すこと／警告すること、反撃すること／質問を量み掛けること／説導尋問すること／不適切にあるあるいは過度に話をえざること／相互関係を支配すること／無難で社交的なやり取りを助長すること／受け答えが少ないこと／遠い過去にこだわること／資料あたりを続けること

■自分の受け答えの効果を測定する

■新しい技術を学ぶという課題

■まとめ

第8章 アセスメント

—問題とストレングスの探求と理解

- アセスメントの多次元性
- アセスメントの定義：過程と成果
- アセスメントと診断
診断・統計マニュアル
- 文化に配慮した上での能力のアセスメント
- アセスメントにおけるストレングスの強調
- アセスメントにおける知識と理論の役割
- 情報源

クライエントとの面接から得た情報／非言語的な行動の直接観察／やり取りの観察／クライエントの自己観察／アセスメント用具

■問題のアセスメントの際に問われる質問

開始時には／何が問題でそれがどう表れているのかなどを同定すること／他の人々とのやり取りやシステムとの関係／生じてくる要求と欲求のアセスメント／示された問題に含まれる典型的な欲求／人生の移行に伴うストレス／問題の深刻度／クライエントが問題に付与する意味／問題行動の発生場所／問題行動の発生時期や時間／問題行動の発生頻度

／問題の継続の歴史／クライエントの問題対処能力に影響を与えるその他の問題／問題に対するクライエントの感情的反応／これまでの対処の試みと今後必要な技術／文化の要因、社会の要因、社会階級の要因／外部の資源の必要性

■子どもと高齢者に対するアセスメント マトリートメント

■まとめ

■ストレングスと問題を探す技術の向上のための演習問題

第9章 アセスメント

—個人内要因、対人的要因、環境的要因

- 人が抱える問題に存在する複数システムの相互作用
- 個人内システム
- 生物物理学的な機能に対するアセスメント
身体的特徴と外見／身体的健康

■薬物、アルコール、ドラッグの使用と乱用に対するアセスメント アルコールの摂取と乱用／その他の薬物の使用と乱用／重複診断／依存症と精神疾患／薬物使用を調べるために直接技術の活用

■認知／知覚の機能に対するアセスメント 知的機能／判断力／現実検討／一貫性／認知の柔軟性／価値観／誤解／自己概念

■感情の機能に対するアセスメント 感情のコントロール／感情の幅／感情の妥当性／情緒障害／双極性障害／大うつ病性障害（うつ病）／自殺の危険性／子どもと青年のうつ病と自殺の危険／高齢者におけるうつ病と自殺の危険

■行動の機能に対するアセスメント

■動機づけに対するアセスメント

■環境というシステムに対するアセスメント 物理的環境／ソーシャルサポートシステム／スピリチュアリティと宗教团体への所属

■アセスメントの記録

■まとめ

■アセスメントの技術向上のための演習問題

第10章 多様な家庭的・文化的背景を持つ家族の機能のアセスメント

現時点では、社会的ストレッサー、非社会的ストレッサーとして下さい。社会規範に基づくストレッサーとそうではないもの、という分類になります。

■家族に対するソーシャルワーク実践

家族の定義

■家族の機能

■家族のストレッサー

社会政策／貧困／誰が、なぜ、貧しいのか。／子どもへの影響／人生の移行と別離／思いも寄らない家族の状況変化／仕事と家族／家族の回復力

■家族の機能を評価するために用いるシステムのフレームワーク

家族に対するアセスメント用ツール／ストレングスを基盤としたリスクのアセスメント／システムの概念／システムの概念の適用／家族のホメオスタシス

■家族のルール

機能的なルールと硬直化したルール／ルールを評価する際の注意点／ルール違反／ルールの柔軟性

■家族の交流における内容とプロセスのレベル 一連のやりとり／行動に対する「循環的」説明の使用

■システムのフレームワークを用いた問題の評価

■家族に対するアセスメントの切り口

家族の背景／家族のストレングス／家族システムの境界と境界の維持／家族の権力構造／権力の分配とバランス／家族の意思決定プロセス／家族の意思決定に対するアセスメント／家族の目標／家族の神話と認知バターン／家族の役割／家族の構成員のコミュニケーション・スタイル／理論的実践例／コミュニケーションの一貫性と明確性／言語レベル／非言語レベル／背景のレベル／コミュニケーションの障壁／受け手側の技術／送り手側の技術／ストレングスと成果、成長を認める受け答え／家族のライフサイクル

■まとめ

■技術向上のための演習問題

第11章 ソーシャルワークにおける グループの形成と評価

トリーメントを治療と説くことについて、初回に直書き込みましたのが、やはりこれは治療とすることになるのでしょうか。たた、ソーシャルワークが治療である、と考えるのはやや飛び過ぎであると思いますので、補足が必要かもしれません。

■グループの分類

■治療グループの形成

グループのニーズの特定／グループの目的の確立／リーダーシップのあり方の決定／グループのフォーマット／グループの意思決定／グループによくある問題への対処／援助を提供する、あるいは援助を求める役割／ビジター／新メンバー／個々のメンバーのソーシャルワーカーとのコンタクト／グループ外におけるメンバー同士のコンタクト／活動場所の手入れと清掃／記録機器の使用／飲食と喫煙／出席率

■ グループの進行経過に対するアセスメント

グループに対するアセスメントのためのシステムのフレームワーク／個人のバターン化された行動の評価／グループのメンバーの役割の特定／個人の行動プロファイルの作成／文化の影響力／個人の認知バターンに対するアセスメント／グループのバターン化された行動に対するアセスメント／グループの連携に対するアセスメント／権力と意思決定スタイルに対するアセスメント／グループの規範、価値観、結束に関するアセスメント

■ 作業グループの形成

作業グループのための計画づくり／作業グループの開始

■ グループとの実践における倫理

初回セッション

■まとめ

■ グループの計画づくりの技術向上のための演習問題

第12章 目標の立て方と契約の仕方

■目標

目標の意味と役割／目標とターゲットとされる懸案事項の関連づけ／プログラムの目的と目標／目標の立て方に影響を及ぼす要因／目標の種類／目標の選択と定義に関するガイドライン／動機づけの一一致／合意可能な、義務づけられた任務／交換条件の提示／義務付けられた任務からの解放／目標の細分化／非自発的なクラウドワークに義務づけられた計画／倫理と法律にまつわる緊張／目標は、機能の機能と一貫していること

■目標を立てるためのガイドラインの未成年者への適用

学校ベースのグループの事例／目標を取り決めるための交渉過程／目標を取り決める交渉に向けたクライエントの心構えの確認／非自発的なクライエントの心構え／目標の目的と機能の説明

■測定と評価

評価方法と進捗状況の測定／評価に必要な資源／注意点と長所／定量的測定／定性的測定

■契約

契約の倫理的根拠／公式・非公式の契約／契約の策定

■参加者の役割

活用すべき介入または技法／セッションの期限、頻度、および期間／セッションの頻度と継続時間／進捗状況のモニタリングの手段／契約の再交渉に関する規定／日常的な管理項目

■契約のサンプル

■まとめ

■技術向上のための演習問題

第3部 変化を志向する段階

第13章 変化を志向する方略の計画と実行

■変化志向アプローチ

■目標の達成方略の計画

問題と目標は何か／アプローチは、対象となる個人、家族、またはグループに適したものであるか／子どもの発達と家族のライフサイクル／ストレスフルな移行／マイノリティグループ／どのような実証的あるいは概念的なエビデンスが、アプローチの有効性を裏づけているか／アプローチの方法はソーシャルワーカーの基本的価値観や倫理と一致しているか／アプローチに対して、十分な知識やスキルを持ち合わせているか

■実践モデルと技法

課題中心システム／課題中心アプローチの原則／理論的な枠組み／課題中心モデルの実証的なエビデンスとその活用／多様なグループへの適用

■課題中心モデルの手順

一般的な課題の策定／グループと家族の目標の細分化／ソーシャルワーカーにとって的一般的な課題／特別な課題の策定／課題の代替案についてのブレインストーミング／課題実行の手順(TIS)／課題の計画のまとめ直し／焦点と継続性の維持／課題完了の失敗／関与の欠如／課題の未確定あるいは不十分な明確化／支援の欠如／ソーシャルワーカーに対する肯定的な反応／不十分な心構え／ターゲットとなる懸案事項に関する実行上の問題／課題中アプローチの長所と限界

■危機介入

危機介入における均衡モデルの原則／危機の定義と段階／面接の期間／未成年者に対する配慮／危機がもたらす

效益／危機介入のプロセスと方法

■認知再構成法

理論的枠組み／認知行動療法の原理——認知再構成法／認知の歪みとは何か／認知再構成法の実証的なエビデンスとその活用／多様なグループに対する認知再構成法の適用／認知再構成法の手順

■解決志向短期療法

解決志向の手順と技法

■まとめ

■問題解決介入アプローチの傾向と挑戦

■技術向上のための演習問題

第14章 介入の方略としての資源開発、組織化、計画、およびアドボカシー

■マクロ実践の定義

■ミクロ実践とマクロ実践の連結

■マクロ実践の活動

■介入の方略

エンパワメントとストレングス／社会問題と社会状況の分析

■資源の開発と補完

既存資源の補完／コミュニケーション資源の動員／多様なグループに対する資源の開発

■サポートシステムの活用と拡充

コミュニケーションサポートシステムとネットワーク／サポートシステムとしての組織／移民と難民のグループ／注意点とアドバイス

■アドボカシーとソーシャルアクション

政策と法律／倫理的問題と個人責任及び就労機会調整法／コースアドボカシーとソーシャルアクション／アドボカシーあるいはソーシャルアクションの適用／コンピテンスと技術／アドボカシーとソーシャルアクションの技法と手順／社会正義に対するさまざまな見方

■コミュニティの組織化

■コミュニティ介入のモデルと方略

■コミュニティ介入の手順と技術

組織化の技術／多様なグループに対する組織化と計画

■コミュニティの組織化における倫理的問題

■制度的環境の改善

組織内の変革

■組織の環境

職員／方針と実践／プライバシー、尊厳と人としての価値／組織の安全対策／慣行化された人種その他の差別／異文化適応力：マクロの視点／組織における異文化適応力／異文化適応力をつけるための組織の方略／資源とツール／公共政策／制度的プログラム

■サービスのコーディネーションと組織の協働

組織間の関係／ケースマネジメント／協働：事例

■マクロ実践の評価

■まとめ

■技術向上のための演習問題

第15章 家族関係の強化

■ファミリーソーシャルワークへのアプローチ

■イニシャルコンタクト

カップルや家族とのイニシャルコンタクト／両親とのイニシャルコンタクト

■家族あるいはカップルとの初回セッションの指揮

予約を入れる際にマイノリティの立場や文化において起きうるダイナミクス

■家族に対する介入：

■文化的およびエコロジカルな視点

コミュニケーションスタイルの違い／ヒエラルキーへの配慮／ソーシャルワーカーの権威／家族の関与／エコロジカルな視点による家族理解／10代の母親／トワナの事例／レスビアンカップル：アンナとジャッキーの事例

■家族への介入：その将来への焦点づけ

■コミュニケーション・パターンと

■コミュニケーション・スタイル

■フィードバックの与え方と受け止め方

■家族への介入：関わりの修正のための方略

メタコミュニケーション／家族内のルールの修正／緊急介入／クライエントを葛藤から解放させるための支援／相補的な関わりの修復／交換式の前提とした変化のための合意交渉

■家族への介入：誤解と認知の歪みの修正

■家族への介入：家族の力関係の修復

■まとめ

■技術向上のための演習問題

第16章 ソーシャルワーク・グループへの介入

■グループの発展段階

第1段階 参加への準備：接近・回避行動

第2段階 力とコントロール：移行の時期

第3段階 親密性：家族的な準拠枠の構築

第4段階 差別化：グループのアイデンティティと内的な準拠枠の構築

第5段階 分離：解散

■グループの発展の各段階におけるリーダーの役割

■グループの構成要素への介入

凝集性の促進／グループの規範の扱い／メンバーの役割に対する介入／サブグループの扱い／リーダーシップ役割の意図的な活用

■グループの発展の各段階を通じて行われる介入

よくある間違い：HEARTグループにおいて内容を過度に重視し、説教に至った例／参加への準備段階における介入／具体性の追求／力とコントロールの段階における介入／変化を最小限に抑える／バランスのとれたフィードバックを促す／効果的なコミュニケーションを増やす／治療規範を構築／親密性の段階と差別化の段階における介入／HEARTグループの例に見る役に立たない考え方：選択的な焦点づけ／最終段階における介入

■グループを対象としたソーシャルワークの新たな展開

■課題グループを対象としたワーク

問題の特定化／メンバーの関与の促進／発展の段階に対する意識向上

■まとめ

■グループ介入に関する技術の向上のための演習問題

■クライエントの発言

■模範回答

第17章 専門家によるより深い共感、解釈、および直面化

■クライエントの自意識の意味と重要性

■専門家によるより深い共感と解釈

より深い感情／感情、思考、行動の根底にある意味／欲求と目標／行動の隠れた目的／実現されていないストレングスと可能性／解釈と専門家によるより深い共感の利用に関するガイドライン／直面化／直面化の利用に関するガイドライン／アサーティブな直面化の適用

■まとめ

■専門家によるより深い共感と解釈に関する技術向上のための演習問題

■クライエントの発言

■解釈と専門家によるより深い共感のための模範回答

■直面化に関する技術向上のための演習問題

■状況と対話

■直面化のための模範回答

第18章 変化を妨げる障壁の取り扱い

■変化を妨げる障壁

■関わり合いの中で生じる反応

クライエントに対するソーシャルワーカーの過少な関わりと過剰な関わり／バーンアウト、共感疲労、および代理トラウマ／病的あるいは適性に欠けるソーシャルワーカー／異なる文化間の障壁／信頼関係の構築の難しさ／転移反応／逆転移反応／現実的な実践者の反応／クライエントに対する性的な関心

■変化に対する抵抗の取り扱い

変化に対する抵抗の回避／転移性の抵抗／変化に対する抵抗の兆し／抵抗を見つけて取り扱うこと／肯定的意味づけ／成長の機会としての問題の再定義／リラベリング／リフレーミング／抵抗のパターンに対する直面化／治療的なしほり

■まとめ

■技術向上のための演習問題

■関わり合いの中で生じる反応と抵抗の取り扱いに関する技術向上のための演習問題

■クライエントの発言

■模範回答

第19章 最終段階：評価と終結

■評価

成果／経過／満足度／終結の種類／終結に対するソーシャルワーカーの反応

■成果の集約と今後の維持方略の計画

フォローアップ／セッション／終結の儀式

■まとめ

■評価と終結に関する技術向上のための演習問題

息の長い基本図書

- カナダ、アメリカの大学院で、ソーシャルワークの基本図書として長年使われ続けており、本書はその8版目。北米のマスター・ソーシャルワークが得ている知識や技術を、この1冊で日本のソーシャルワーカーが手に入れることができます。

基本的事項が網羅された百科事典的な内容

- 対人援助のプロフェッショナルのトレーニングに、教科書、参考書として用いることができます。基本的事項が網羅され、百科事典的な内容です。

幅広い読者層

- カウンセリングなどの直接支援業務を中心の臨床心理士から、コミュニティで活動するソーシャルワーカーに至るまで、対人援助のプロフェッショナルはもちろんのこと、大学院生や研究者など幅広い読者層が期待できます。

豊富な事例、演習問題

- 事例とともに、クライアントとソーシャルワーカーの対話を具体的に再現。演習問題も充実。

本書出版の意義

監修者 武藏大学 武田信子

日本社会におけるソーシャルワークの重要性は地域社会の衰退、少子高齢化、格差の拡大等にともない、年々高まっているが、日本のソーシャルワークは欧米発祥のソーシャルワークに比べて、歴史が短く、十分な発展を遂げていない。現在、日本では社会福祉士は国家資格となっているが、その専門性が必ずしも社会的に高い評価を受けているとはいえない状況にある。しかし、介護、虐待、ホームレス、外国人居住者などの問題への対応や、行政におけるコミュニティワークの必要性、スクールソーシャルワーカーの学校への導入など、ソーシャルワークに対するニーズは確実に増えてきており、そのニーズに対応できるソーシャルワーカーの質の確保が喫緊の課題となっている。

ソーシャルワークの先進国である北米では、大学院レベルのマスター・オブ・ソーシャルワークを多数輩出、個人開業や行政、病院、施設、第三者機関などでソーシャルワーカーの活躍は著しい。

本書はその北米でおそらくもっともよく使われている大学院レベルのソーシャルワークのテキストであり、刊行以来、版を重ねているものである。ダイレクト・ソーシャルワークと銘打っているが、その実践には間接支援のものの見方、エコロジカルな視点を基本に置いており、カウンセリングなどの直接支援業務を中心の心理臨床家、教員を含む多様な対人支援専門職の方々から、各種のコミュニティで活動するソーシャルワーカー、行政職員、NPO活動家等に至るまで、幅広く対人援助のプロフェッショナルが包括的な視点を身につけることができる。多様性のある人間の理解を深め、対応を具体的に学ぶことのできる、ある意味、基本的事項の網羅された百科事典的な書物である。

本書の刊行はまちがいなく、日本のソーシャルワーク全体の底上げにつながり、今後の日本社会に必要な社会変革への大切なリソースが増えるだろう。

何よりもこの本の出版の意義は、日本に一つのソーシャルワークモデルを提供している北米において、大学院レベルのソーシャルワーカーが得ている知識や技術を日本の対人支援専門職が手に入れることができる、ということにある。それは、日本のソーシャルワーカーや臨床心理士など、対人支援専門職のありかたそのものに刺激を与え、変化をもたらすきっかけとなるだろう。そして、日本の社会福祉を、現行の優秀なケア型に加えて、さらに社会変革の方向へ進化させていく一助となると思われる。

手元に、学校に、図書館に、いつでも参照できるように備え、じっくりと読むことで、この分厚い一冊が、あなたの実践と研究と日常に変革をもたらすに違いない。

申込書

ダイレクト・ソーシャルワーク ハンドブックを

冊申し込みます。

対人支援の理論と技術

B5判／上製／984頁(予定) ● 定価：本体価格 25,000円(+税) ISBN978-4-7503-4171-2



団体名
学校名

お名前

ご住所 〒

お電話 ()

FAX

()

メールアドレス

明石書店

〒101-0021
東京都千代田区外神田6-9-5
TEL.03-5818-1171
FAX.03-5818-1174
URL=http://www.akashi.co.jp/
E-mail=eigyo@akashi.co.jp
■図書目録送呈